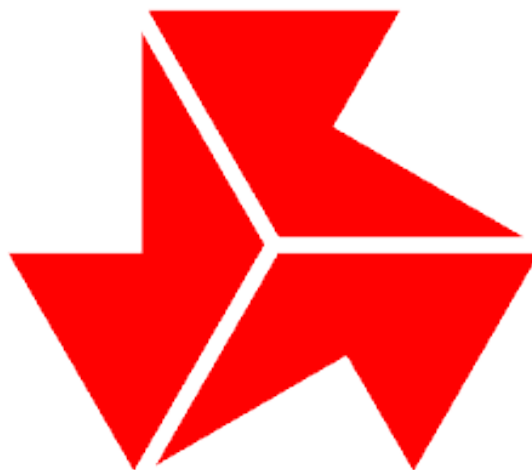


令和3年度全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技大会
高円宮賜牌 第54回全国高等学校アーチェリー選手権大会



走り北信越の大地もとへ北信越の大会へ

競技上の注意



【表彰式、閉会式】 鯖江市総合体育館
【開会行事、競技会場】 鯖江市東公園陸上競技場

(公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部
福井県高等学校体育連盟 福井県アーチェリー協会

< 競技日程 >

日程	実施内容	時 間	摘 要
	8月19日(木)	10:00～11:00 12:00～14:00 15:10～16:30	役員会議 式典リハーサル 競技・審判リハーサル
1 日 目	8月20日(金) 男子	8:00 8:45～9:00 9:30～11:30 12:30～14:00 15:00～15:30 15:30～16:00 16:30～	受付 開会行事 70mラウンド前半 70mラウンド後半 団体セミファイナル 団体ゴールドメダルマッチ 表彰式、閉会式
2 日 目	8月21日(土) 女子	8:00 8:45～9:00 9:30～11:30 12:30～14:00 15:00～15:30 15:30～16:00 16:30～	受付 開会行事 70mラウンド前半 70mラウンド後半 団体セミファイナル 団体ゴールドメダルマッチ 表彰式、閉会式

* 競技の進行時間は、天候、進行具合等により変動することがあります。

< 競技規則 > (公社)全日本アーチェリー連盟競技規則および(公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が定める大会運営規定により実施する。

< 大会運営規定 > (公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が定める服装規定により実施する。

1 用具・服装検査

(1) 服装検査は、別紙「服装検査届出用紙」に巻末の記入例を参考に、下記に示す写真を添付し必要事項を記入の上、メール送信もしくは郵送により書面で行う。

※競技者番号は、7月1日(木)の組み合わせ抽選会後に専門部 HP に掲載される抽選結果で確認すること。

- ① 提出締切り 令和3年7月19日(月)必着
- ② 送付先 〒506-0059 岐阜県高山市下林町353 高山西高等学校内
(公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局 宛
TEL 0577-32-2590 FAX 0577-33-9911 E-mail sugiura@takanishi.ed.jp
- ③ 添付する写真は以下の通りとする。
 - a ユニフォームの前面、背面(前面撮影時に、右袖の都道府県名が確認できる様にする事。)
※アンダーウェアを着用する場合は、上衣に重ねて(中に入れる等)撮影
 - b 下衣の前面、背面、側面

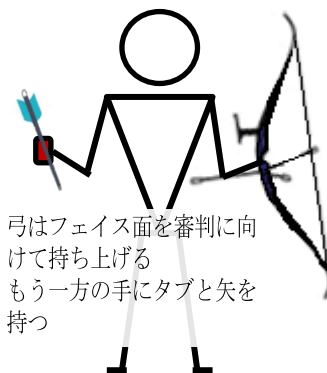
(2) 検査時には当該校の監督が立ち会うこと。

(3) 競技中も、用具および服装は検査継続の対象とする。

(4) 用具の交換や修理に際しては、その都度審判員のチェックを受けること。

(5) 用具検査(一斉検査)

- ① 開会行事後～競技開始前に審判員の指示により用具検査を行う。
- ② 選手は立ごと(的順)に整列し監督立会いのもと、順次検査を受ける。
※ A 立ち:立番前、B 立ち:SL、C 立ち:WL前、D 立ち:WWL前
- ③ 弓はフェイス面を審判員(的方向)に向けて持ち上げる。もう一方の手にタブ、代表の矢を持つ。(矢の種類が複数ある場合には複数本)なお、使用する矢はクィーバーに入れるなど所持しておく。
- ④ 以下の項目について検査を行う。
 - A ゼッケン(予選用を背面に着用)
 - B 規定に適合したユニフォームとその着用状態
※事前審査と同じものであること。(事前審査と異なる場合は出場を認めない)
 - a 弓・タブ(競技に適した安全なものか)
 - b 矢(代表矢)※ノック、フェザー、ネーム等、使用矢のチェック
 - c ユニフォームの着用状態



(6) 検査不合格の選手・チームに対して、競技開始前まで競技本部で再検査を行う。必ず監督が同伴すること。

2 選手のエントリーと棄権について

(1) 団体戦のエントリーは3名までとし、70Mラウンドの成績は3名の合計得点で決定する。決勝ラウンドは70Mラウンドに出場した3名で行射を行う。なお、参加申し込み後の選手・補欠選手の変更は認めない。

(2) 団体戦70Mラウンドの選手交代、選手の棄権等の届け出時間・場所は、以下の通りとする。

変更届出時間	男子:8月20日(金)	8:30まで
	女子:8月21日(土)	8:30まで
届出場所	大会本部	

4 競技・行射方法について

(1) 70Mラウンド団体戦・個人戦およびシュートオフ、順位の決定

- ア 行射は1標的2名の2立ち(AB/CD)で、距離は70m、122cm的を使用し、4分6射ごとに採点および矢取りを行う。なお、選手の行射については、指定された行射位置とする。
- イ 個人戦の成績順位は、70Mラウンドの得点で決定する。なお、団体戦出場者は、個人戦を兼ねるものとする。
- ウ 団体戦の予選成績順位は、出場選手3名の個人得点合計で決定する。
- エ 団体戦の予選通過チームは、男女とも上位4位までとする。
- オ 競技前に練習を設ける。(AB・CD矢取り、CD・AB矢取り)
- カ 用具破損等で審判へアピールするときは、シューティングラインから外れ、挙手して知らせる。
- キ 補充矢を行射する時間は最大15分で行う。
- ク 団体戦の決勝ラウンド進出をかけた順位(4位)で同点が生じた場合には、フィールド中央に近いどちらのチームも使用していない標的を使用し、1チーム1標的で3射(各競技者1射)の得点によるシュートオフを行う。(制限時間40秒)
- シュートオフが同点の場合、チーム内の中心に最も近い矢により決定する。これも同じならば、チーム内で2番目に中心に近い矢で、これも同じならば3番目に中心に近い矢で決定する。これでも順位が決まらない場合は、同様の方法で順位が決定するまで繰り返す。
- ケ 70Mラウンドの得点が同点だった場合、順位は次のようにして決定する。
- 10点(インナー10を含む)の数の最も多いもの。
 - X(インナー10)数の最も多いもの。
 - a、bが同数の場合は同順位とする。
 - 団体戦セミファイナル(準決勝)における対戦表の位置を決めるとき、上記a、bによって決定する。それでも順位が決まらない場合は、ディスクトスによって順位を決定する。(ディスクトスは、競技本部前で行う)
- コ 競技中、監督・補欠選手は、WWLまで立ち入ることができる。

(2) 団体戦決勝ラウンド

- ア 距離は70m、122cm的を使用して行う。
- イ 決勝ラウンドに出場するチームは、予選ラウンドで使用したゼッケンを背面に、団体戦決勝ラウンド用(予選通過順位)ゼッケンをクイバーに装着する。
- ウ チーム内の選手の矢は、ノックやフェザーで容易に区別ができるようにする。
- エ セミファイナル(準決勝)の競技開始前にのみ練習を設ける。(2分×2回)
- オ 全対戦において1チーム1標的を使用する。
- カ 各対戦の行射位置は、トーナメント表(P11参照)のとおりとする。
- キ 対戦はセットシステム(1セット2分6射(3名×2射)4セットマッチ)で実施し、各セットの勝者は2ポイント、敗者は0ポイント、同点の場合は両者とも1ポイント、シュートオフの勝者は1ポイントを獲得する。5ポイント以上に達したチームは勝者となり次のラウンドに進む。
- ク セミファイナル(準決勝)の行射について
- ブザー2声で、1mライン後方で行射開始に備える。
※ムーブアップ(10秒)の間に1mラインを越えてはならない。
 - ブザー1声で各チーム1選手がシューティングラインに入り行射を開始する。



決勝用ゼッケン装着例

- c 全ての選手が行射を終えるか、制限時間が経過した時点でブザー3声が鳴り、矢取りと採点を行う。
 - d 3選手はどのような順序で行射を行ってもよいが、1セットに1選手2本以内を行射する。1セット6射の内、1名の競技者が2本の矢をすべて行射しなかった場合でも、行射しなかった矢はそのセットに含まれ、M（ミス）と採点する。
 - e 勝敗が決したら、代表者サイン後に後方の審判員から確認を受け、ポイントボード後方で勝者コールを受ける。
※審判員確認時点で計算ミス等が発覚し、勝敗が違っていても、スコアカードの記載内容が優先される。
 - f 団体戦決勝ラウンドの罰則規定は、巻末の『参考資料』の【団体戦の罰則規定について】による。
- ケ ゴールドメダルマッチ（優勝決定戦）の行射について
- ※ ゴールドメダルマッチ（優勝決定戦）は動画配信の予定があるため、出場する選手（チーム）のアンダーの色はユニフォームと同色もしくは白色とする（アンダーを着用する場合）。**
- a ゴールドメダルマッチ（優勝決定戦）は交互射ちのマッチ戦とする。
 - b 交互射ちの順番は、70Mラウンドの上位チームが決定する。
 - c 第2セット以降は、合計ポイントの低いチームが先攻となる。
 - d 各セット終了時に両者の合計ポイントが同点の場合は、第1セット先攻のチームが先攻となる。
 - e 先攻するチームはブザー2声で、1mライン後方で行射開始に備える。
※ムーブアップ(10秒)の間に1mラインを超えてはならない。
 - f 先攻するチームはブザー1声で1番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始し、3番目の選手が行射を終え1mラインをまたぎ越した時にタイマーが止まる。
 - g 後攻のチームは1mラインの後方で待機し、自チームのタイマーが減算を始めたのを確認してから、1番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始する。3番目の選手が行射を終え1mラインをまたぎ越した時にタイマーが止まる。
 - h これ以降は自チームのタイマーが減算を始めたのを確認し、1番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始する。
 - i セットの最終行射または行射時間が終了するとブザーが3声鳴り、エージェント（得点記録代行者）がスコアカードに記入、確認を行う。
 - j 3選手はどのような順序で行射を行ってもよいが、1度に1選手1本のみを行射する。1セット6射の内、1名の競技者が2本の矢をすべて行射しなかった場合でも、行射しなかった矢はそのセットに含まれ、M（ミス）と採点する。
- コ 用具破損によるロスタイムは認めない。（予備弓具の位置はWLとWWLの間とする。）
- サ 1人の選手が行射終了後1mライン後方に下がるまで次の選手は1mラインを越えてはならない。
- シ チームの3選手全員が制限時間内に行射を終了しなければならない。
- ス 1mライン後方にいる選手は、スコープ等を用いて的中場所を確認し、行射中の選手に教示することができる。監督・補欠選手のうち1名はコーチボックスに入ることができ、選手に指示を与えることができる。その際、手持ちの双眼鏡または三脚付きスコープ等を使用することができる。（スコープ等はそれぞれ1つずつ持ち込むことができる）
- セ セミファイナル（準決勝）までの対戦で同点が生じた場合は、得点による3射1分(各競技者1射)のシュートオフ（1分3射（3名×1射））により勝敗を決定する。シュートオフではチームの3選手が1射ずつ行射する。この場合も1名ずつシューティングラインに立ち行射する。3射の合計

点が同点の場合は、的の中心に最も近い矢を有するチームを勝者とする。これも同じならば、チーム内で2番目(または3番目)に近い矢を有するチームを勝者とする。これでも順位が決まらない場合、順位が決定するまで繰り返す。

ソ ゴールドメダルマッチ(優勝決定戦)でのシュートオフ(1分3射(3名×1射))は、交互行射を行い、第1エンド目に先攻したチームが先に行射する。シュートオフには、その対戦で使用した標的を用いる。

タ マッチ戦の敗者の順位決定法

セミファイナル(準決勝)の敗者は、両チームを3位とする。

チ チームの監督・補欠選手のうち1名が、※コーチボックスに入ることができる。

(コーチボックスに入らない監督・補欠選手は、WWLまで立ち入ることができる。)

※審判員が選手の行為等に対して注意・指導を与える場合、コーチボックスに監督がいないときは、監督を通さずに直接選手又は補欠選手に行うこととする。

(4) 標的および競技者番号(ゼッケン)について

ア 70Mラウンドでは、各選手はプログラムに記載された標的を使用する。

イ 決勝ラウンドでは、70Mラウンドの順位により使用標的が決定する。

ウ 各参加選手及び補欠選手は、配布されたゼッケンを必ず装着する。

エ 予選通過チームには、予選用ゼッケンとは別に、決勝ラウンド用のゼッケンを配布する。

※ 決勝用ゼッケン配布は、団体戦セミファイナル(準決勝)開始前のチーム確認時に行う。

5 得点記録について

(1) 得点記録はスコアカード(70Mラウンド・決勝用)を使用し、同一標的を使用する全選手で行う。また、予選の得点は携帯端末を使用し入力した後、選手全員が確認して記録を送信する。

(2) 70Mラウンドの得点記録は、次の通り各々が分担して行う。

ア 矢を所有する競技者の指差し呼称(その際は矢には触れないよう注意すること)にしたがって、高い得点から順にスコアカードに記入する。

その標的の他の競技者は、得点入力・記入確認・的中確認を行う。

(インナー10はアルファベットの「X」を、0点はアルファベットの「M」を記入・入力する。)

イ 矢の所有者および他の同一標的を使用する他の選手が、それぞれを分担して得点確認を行い、確実に実施するものとする。

ウ 各選手はスコアカードと携帯端末の得点が合っていることを確認後、携帯端末から送信する。

エ 選手自身が関与する得点記録業務の内容は、他の選手の得点記録や順位に関する権利にも影響を及ぼす。それぞれが下記の順序のとおり分担業務を確実に行うこと。役割等を拒んだ場合は競技会への参加権利を失うものとする。虚偽が発生した場合は、当該選手または同一標的選手全員を失格とすることもある。

<1的4人>

順序	得点記録の順序/業務分担	選手A	選手B	選手C	選手D
1	Aの得点記録	得点呼称 スコアラー	呼称確認 入力確認	復唱 端末入力	呼称確認 記入確認
2	Bの得点記録	復唱 スコアラー	得点呼称 入力確認	呼称確認 端末入力	呼称確認 記入確認
3	Cの得点記録	復唱 スコアラー	呼称確認 入力確認	得点呼称 端末入力	呼称確認 記入確認

4	Dの得点記録	復唱 スコアラー	呼称確認 入力確認	呼称確認 端末入力	得点呼称 記入確認
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・誤記の無いよう確認をしっかりと行うこと。 ・スコアカード、端末の交換は行わず、担当選手が管理すること。 ・選手Bは、端末の入力の確認を行う。 ・選手Dは、スコアシートの記入の確認を行う。 ・スコアカードの間違いを防ぐため、記録する選手の名前を呼んでから記録する。 ・得点呼称された得点を記入・入力する際は得点を復唱する。 ・標的面的的中孔の全てに、L字でチェックする。 				

< 1的3人の場合 > ※1的4人の場合を参考に分担する。(A立ち:スコアラー、C立ち:端末入力)

順序	得点記録の順序/業務分担	競技者A	競技者B	競技者C
1	Aの得点記録	得点呼称 スコアラー	復唱 端末入力	呼称確認 入力確認
2	Bの得点記録	復唱 スコアラー	得点呼称 端末入力	呼称確認 入力確認
3	Cの得点記録	復唱 スコアラー	呼称確認 端末入力	得点呼称 入力確認
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・誤記の無いよう確認をしっかりと行うこと。 ・スコアカード、端末の交換は行わず、担当選手が管理すること。 ・競技者Cは、スコアシートの記入、端末の入力の確認を行う。 ・スコアカードの間違いを防ぐため、記録する選手の名前を呼んでから記録する。 ・得点呼称された得点を記入・入力する際は得点を復唱する。 ・標的面的的中孔の全てに、L字でチェックする。 			

- (3) 得点記録(的中点数の判読・記載得点の復唱・誤記入等)に関し、異議があれば直ちに審判員の判定、訂正確認を求めることができる。
- (4) 的中点数の判定について、選手は次のとおり疑義を申し立てる権利がある。
- ア 得点の判読に対する自己確認または同一標的を使用する選手それぞれの立場で疑義が生じた場合、いずれからも審判員の判定を求めることができる。
- イ 審判員により得点の判読が行われ、これが最終判定となる。
- (5) 選手は競技終了後、サイン(競技者、記録者)、合計点、10点数、X数を全て記入したスコアカードを提出しなければならない。(スコアラーへの記録者サインは、別の競技者が行う。)主催者が間違いを発見した場合、その間違いは訂正され、その結果は有効とする。選手は自分のスコアカードに対して最終的な責任を有し、手書きのスコアカードが提出されていない、もしくは選手のサインがなく提出され、そのとき修正されていなければ、その選手の記録は無効となる。
- (5) スコアカードに合計得点等が記入されないままサインし、記録本部に提出された場合は「記録なし(0点)」とする。
- (6) 決勝ラウンドのセミファイナル(準決勝)・ゴールドメダルマッチ(優勝決定戦)のスコアカードへの記入及びポイントボードへのポイント表示は選手が行う。
- (7) 同一標的選手全員の得点記録業務が完了し、得点記入が終わったことを選手全員が確認するまで、矢・標的面・標的支持枠等は一切触れてはならない。

- (8) スコアカードに記載された得点の訂正は、矢を抜き取る前に審判員を呼び、2本線で該当エンドのすべて矢の訂正を行い、その的の全選手がサインし、審判員に確認してもらう。同じエンドで2回以上の訂正をする場合は、訂正欄がないため審判員に訂正してもらう。
- (9) 得点記録の分担業務を、各自が完全に履行すること。不注意による不履行でも「合意の違反行為」とみなされる。
- ア スコアカードに記載される各エンドのスコアが正確であることについて、各選手は競技者としての責任を負わなければならない。
 - イ 各々の分担業務遂行のため、選手名を聞き漏らさないこと。
 - ウ 誤りを防ぐために、用紙・選手名・記入上の確認を行うこと。
 - エ 得点記入した選手が復唱しない場合は、復唱を必ず要求すること。
 - オ 声量不足で聞き取れない場合は、再度の復唱と声量の要求をすること。
 - カ 得点呼称時に、必ず「自分のスコアカードの記入欄」であることを確認すること。
- (10) 得点記録業務において、次の場合には当該選手並びに同一標的を使用する選手全員の失格を宣言することがある。
- ア 自身の虚偽や不正申告の場合
 - イ 上記行為の合意・容認の場合
 - ウ 各厳守事項に対する不全・不履行の場合
- (11) 競技者自身が標的にいけない場合、審判員の許可を得てチームの監督、同じ標的の他の競技者またはその競技者の代行者に得点記録と矢の回収の権利を委託することができる。

6 記録について

- (1) 記録の貼出しは行わず、得点集計システムを用いた電子配信のみとする。
- (2) 70M ラウンド終了後に行う記録の確認は、電子配信された確認記録一覧表による。
※確認記録に対する異議申し立ては、確認記録配信後 10 分間とする。
- (3) 決勝ラウンドは、各対戦終了毎の結果を表示する。
- (4) 確定記録は、本専門部 HP 上による電子配信とし、競技終了後、競技会場での配布は行わない。
<配信先> (公財) 全国高体連アーチェリー専門部ホームページ「<http://www.zk-archery.org/>」

7 異議申し立てについて

得点記録以外の異議申し立てについては、いかなる場合も監督を通じて競技本部へ申し出、競技委員長、又は審判長の裁定をもって最終決定とする。その裁定を不服とする上訴委員会への提訴については、(公社) 全日本アーチェリー連盟競技規則に準じた手続きを取らなければならない。

8 ロストアローについて

- (1) 競技会場で行射により矢を紛失した場合は、審判員(競技会場)に必ず報告すること。
- (2) 競技会場で報告のない矢が見つかった場合は、その本数分の最高点を削除する場合がある。

9 失格について

- (1) 選手の違反行為に対して
- 1 回目……………注意
 - 2 回目……………警告
 - 3 回目……………失格の処分とする。

ただし、大会の秩序を著しく失墜混乱させる行為・スポーツマンシップに反する行為等については、1回目での失格もあり得る。

(2) 監督の違反行為についても同様であるが、特に以下の事項に注意すること。

ア 喫煙については所定の場所以外では厳禁のこと。

イ その他、「競技規則」や「総体参加心得」に反する行為とみなされた場合は、競技場への立ち入りを制限する。

1.1 競技場について

(1) 監督・選手・補欠選手には、「IDカード」を配布するので、大会期間中、競技場内に入場する場合は必ず装着すること。(引率のみの先生は入場できません)

(2) 使用する弓具はWLの後方に整頓して置く。(弓の一部がWLからはみ出さないようにする)

(3) 携帯電話等は音の出ない設定にする、もしくは電源を切ること。また、写真撮影などによるフラッシュは禁止とする。

(4) インターハイ会場内における無断撮影・録画および無断録音を禁止する。ただし、個人的な利用が目的で、インターネット等で配信するなど第三者に公開することがない場合には許可する。その場合でも、肖像権や著作権を侵害することがあるので、利用者の責任において行うこと。

1.2 個人戦表彰式・団体戦表彰式および閉会式について

個人戦・団体戦表彰式および閉会式には、入賞した全選手・補欠選手(団体戦)が参加すること。

13 スコアカード

(1) 70M ラウンド用スコアカード

ア スコアカードは70M ラウンド練習前に配布される。

(選手は競技者番号・選手名・所属学校名・前半・後半に○印を記入すること)

イ スコアカードは1的ごとにA4版1枚とする。

ウ 1枚目(黒)：本部用、2枚目(青)：選手用、3枚目(赤)：記録用である。

スコアラーはスコアカードの得点記入およびスコアカードの管理をすること。選手用(青)は各自で保管する。

エ 得点記入は下から記入する。

オ 36射終了時に、選手サイン・記録者サインを忘れないこと。

※スコアラーへの記録者サインは、別の競技者が行う。

※サイン不履行の場合は、競技本部はスコアカードの受け取りを拒否することができる。

カ クィーバーの矢の本数の記入と、競技終了後の本数確認を確実にすること。

令和3年度 全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技
高円宮賜牌 第54回全国高等学校アーチェリー選手権大会

令和3年度 全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技
高円宮賜牌 第54回全国高等学校アーチェリー選手権大会

令和3年度 全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技
高円宮賜牌 第54回全国高等学校アーチェリー選手権大会

令和3年度 全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技
高円宮賜牌 第54回全国高等学校アーチェリー選手権大会

競技者番号	○○ - A	日付	令和3年 8月××日
選手名	○○ ○○	クィーバーの矢	
所属	○○ 学校	学校	○ 本
1エンド	2エンド	3エンド	4エンド
5エンド	6エンド	合計	
10数	X数	選手サイン	○○ ○○
		記録者サイン	□□ □□
6エンド	○○- A	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
5エンド	○○- A	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
4エンド	○○- A	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
3エンド	○○- A	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
2エンド	○○- A	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
1エンド	○○- A	10 9 8 7 7 7	小計
70mR	(前半 後半)		47
訂正サイン			48

競技者番号	○○ - B	日付	令和3年 8月××日
選手名	◎◎ ◎◎	クィーバーの矢	
所属	◎◎ 学校	学校	◎ 本
1エンド	2エンド	3エンド	4エンド
5エンド	6エンド	合計	
10数	X数	選手サイン	◎◎ ◎◎
		記録者サイン	○○ ○○
6エンド	○○- B	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
5エンド	○○- B	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
4エンド	○○- B	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
3エンド	○○- B	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
2エンド	○○- B	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
1エンド	○○- B	10 9 8 7 7 7	小計
70mR	(前半 後半)	10 10 9 9 8 M	46
訂正サイン		○○ ◎◎ □□ △△	

競技者番号	○○ - C	日付	令和3年 8月××日
選手名	□□ □□	クィーバーの矢	
所属	□□ 学校	学校	□ 本
1エンド	2エンド	3エンド	4エンド
5エンド	6エンド	合計	
10数	X数	選手サイン	□□ □□
		記録者サイン	○○ ○○
6エンド	○○- C	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
5エンド	○○- C	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
4エンド	○○- C	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
3エンド	○○- C	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
2エンド	○○- C	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
1エンド	○○- C	10 9 8 7 7 7	小計
70mR	(前半 後半)	X 9 8 7 7 6	47
訂正サイン		○○ ◎◎ □□ △△	

競技者番号	○○ - D	日付	令和3年 8月××日
選手名	△△ △△	クィーバーの矢	
所属	△△ 学校	学校	△ 本
1エンド	2エンド	3エンド	4エンド
5エンド	6エンド	合計	
10数	X数	選手サイン	△△ △△
		記録者サイン	○○ ○○
6エンド	○○- D	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
5エンド	○○- D	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
4エンド	○○- D	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
3エンド	○○- D	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
2エンド	○○- D	小計	
70mR	(前半 後半)		
訂正サイン			
1エンド	○○- D	10 9 8	小計
70mR	(前半 後半)	9 9 8 8 8 8	50
訂正サイン		○○ ◎◎ □□ △△	

3枚複写(1枚日本部用、2枚目選手用、3枚目記録集計用)

(2) 団体戦決勝ラウンド用スコアカード

ア スコアカードは各対戦前に配布される。必要事項を記入し開始時に担当審判に提出する。

(選手は的番号・競技者番号・学校名を記入する。)

イ スコアカードは1対戦(2チーム)に1枚で記入する。

ウ スコアカードは1枚目(黒)：競技本部用、2枚目(赤)：記録本部用

選手は6射ごとに記録し、集計用携帯端末に入力する。

エ 対戦終了後に選手サインを忘れないこと。

※サイン不履行の場合は、競技本部はスコアカードの受け取りを拒否することができる。

令和3年度全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技 高円宮賜牌第54回全国高等学校アーチェリー選手権大会

令和3年 8月 ××日

団体戦決勝ラウンド

男子

女子

Semi
準決勝

Gold
決勝戦

競技者番号(予選順位)	77-A・78-A・79-A(3位)							的番号	3	的番号	4	競技者番号(予選順位)	81-C・82-C・83-C(2位)							的番号	3	的番号	4		
学校名	◎ ◎ 高等 学校											学校名	◇ ◇ 高等 学校												
	1	2	3	4	5	6	小計	訂正サイン	ポイント	0	ポイント	2		1	2	3	4	5	6	小計	訂正サイン	ポイント	0	ポイント	2
1セット	9	9	8	8	7	7	48		1	0	2	1	10	10	9	9	8	8	54	◇ ◇					
訂正													訂正	10	10	9	8	8	8	53	◎ ◎				
2セット	10	9	8	8	8	7	50		2	2/2	0/2	2	2	9	9	8	8	7	7	48					
訂正													訂正												
3セット	10	9	9	8	8	7	51		3	0/2	2/4	3	3	10	9	9	9	8	7	52					
訂正													訂正												
4セット	10	9	9	9	8	7	52		4	2/4	0/4	4	4	10	9	8	8	8	7	50					
訂正													訂正												

		1	2	3	合計	判定
シュートオフ	1回目	10	9	7	26	
	2回目					

SO	0/4	1/5	SO
合計	4	5	合計

		1	2	3	合計	判定
シュートオフ	1回目	10	9	8	27	
	2回目					

代表者サイン ◎ ◎ ◎ ◎

勝 勝

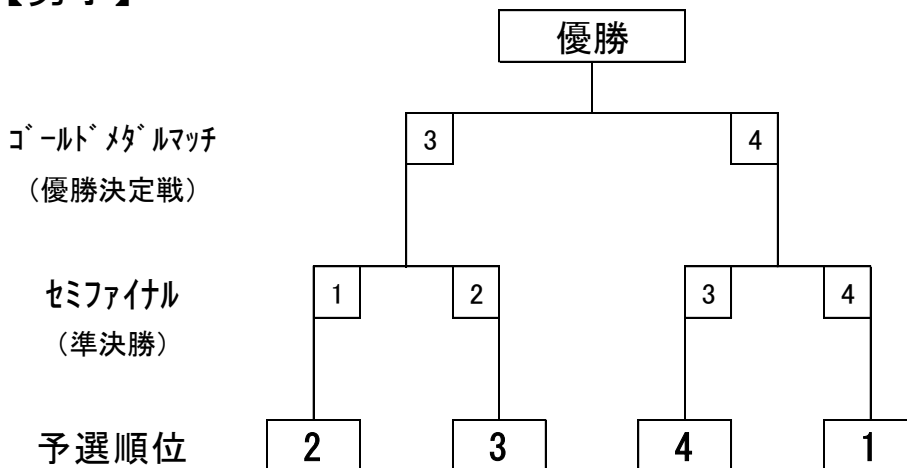
代表者サイン ◇ ◇ ◇ ◇

1枚目競技本部用 2枚目記録本部用

団体戦決勝トーナメント表

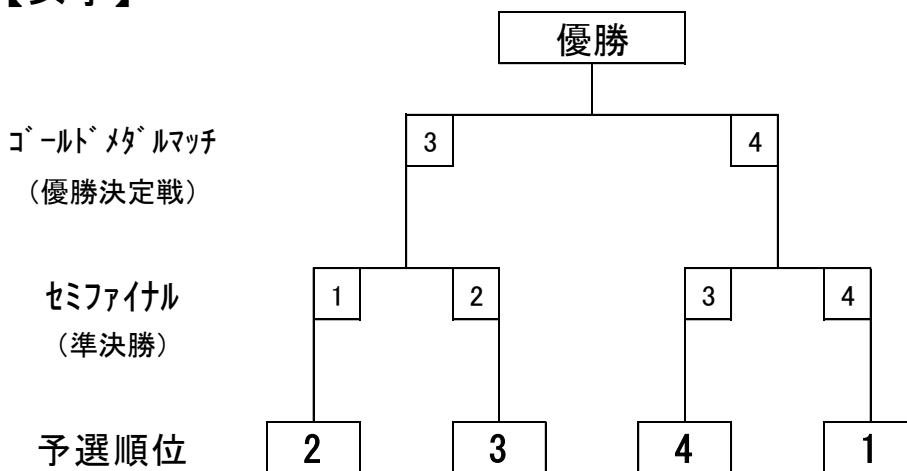
- ※ □内の数字は標的番号を表す。
- ※ 左右の立ち位置は、トーナメント表通りとする。

【男子】



※トーナメント表内の数字は標的番号

【女子】



※トーナメント表内の数字は標的番号

『参考資料』

【団体戦の罰則規定について】

1 1 mラインを越えるのが早すぎたとき。

『規則』 1名の選手しか1 mラインを越えてはならない。

事例：1 mライン以内に複数の選手が立ち入ったとき。

対応：イエローカードが出されたら、後から1 mライン内に入った選手は、1 mライン後方に戻ってやり直す。矢はクィーバーに戻す。警告を無視して行射を続けたとき(そのチームの次の矢が行射された時点)、レッドカードが出され、最高点削除。

2 クィーバーから矢を早く抜きすぎたとき。

『規則』 シューティングラインをまたいで立つまではクィーバーから矢を取り出してはならない。

対応：イエローカードが出されたら、後から1 mライン内に入った選手は、1 mライン後方に戻ってやり直す。矢はクィーバーに戻す。警告を無視して行射を続けたとき(そのチームの次の矢が行射された時点)、レッドカードが出され、最高点削除。

3 決められた本数以上の矢を射ったとき。(時間外発射を含む)

事例①：1人の選手が3本行射した。(1回戦から準決勝の場合)

対応：重大な違反として対処する。

内容：レッドカードが出され、最高点削除となる。

事例②：制限時間を過ぎて矢を発射した。

対応：重大な違反として対処する。

内容：レッドカードが出され、最高点削除となる。

《付記》選手は、その選手のものであるとはっきり識別できる矢を使わなければならない。

審判員が一目見て、3選手がそれぞれ2射しか発射していないことが確認できるように、各選手はチーム内の他の選手とは明らかに違った、ノック・フェザー・クレストを使用すること。

4 コーチボックス内にいる者が、コーチボックスから出たとき。

『規則』 監督は、選手が行射中は、コーチボックスの中かダブルウエティングライン後方にいなければならない。

1回目の違反 → 対応：審判は、コーチボックスを指す。

2回目の違反 → 対応：その対戦中、コーチボックスから退去させる。

3回目の違反 → 対応：その日の競技終了まで競技場への立ち入りを禁止する。

5 行射開始の合図以前に1 mラインを越えたとき。

『規則』 全ての団体戦は、1 mライン後方に待機した状態で始まる。

事例①：選手がブザー2声(ムーブアップ)で1 mラインを越え、シューティングラインに移動した。

対応：小さな違反として対処する。

内容：イエローカードが出されたら、後から1 mライン内に入った選手は、1 mライン後方に戻ってやり直す。矢はクィーバーに戻す。

警告を無視して行射を続けた場合、レッドカードが出され、そのエンドの最高得点が削除。

《付記》対戦相手の行射を妨害、誹謗するようなかけ声、虚偽の得点の発声等による錯乱・虚勢行為は、競技者としてはあるまじき行為である。相手の立場を尊重するフェアプレーの精神で、真摯な競技態度であることを望む。この点については、各監督に徹底して事前指導を要望する。また、競技場外(応援席等)の応援者から同様の行為があった場合は、競技場内への立ち入りを禁止するなどの対処を行うことがある。

●服装検査届出用紙

B

種別	男子	種目	団体	都道府県	学校名	ゼッケン	選手名	型番	色
メーカー:									
<u>下衣(前面)</u>					<u>下衣(背面)</u>				
					<u>下衣(側面)</u>				